

～Thank you～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 12. 14
No.14 文責 荒木

第8回学びカフェ

係活動、どうしていますか？

木曜日の学びカフェは、山大の江間先生をはじめ、県教育センター、山大附属小、酒田市立一條小の先生方に覗かれながら、金魚鉢の金魚になった気分で行われました。「係活動」について、先生方の実践をお聞きしました。

＜山田先生＞

1年生なので、係活動が何かわからない。だから、最初は教師である自分自身が全ての仕事を行い、その姿を見せてから、「誰か代わりに、やってくれない？」と、子どもたちに預けるようにしている。1年間を通して、同じ子に同じ係をさせている。

＜白田先生＞

最初に「去年どんな係があったの？」と、1年生の係活動をふり返らせた。今年もあった方がいい係に、新たに必要な係をつけ足して行っている。学期ごとにふり返り、必要な係を見直している。（例：仕事量の少ない掲示係と本係の合体）

＜伊藤先生＞

通常の係活動の他に、「会社活動」と称して、「やらなくてもいいけど、やったら楽しい」係を子どもたちにさせている。「新聞会社」「写真会社」「イベント会社」を立ち上げたが、現在は「写真会社」が「新聞会社」に吸収合併され、2つの会社になっている。

＜大前先生＞

係は決めていない。誰かが進んでしてくれたら価値づけている。周りの子にも、やってもらったら、感謝の気持ちをきちんと伝えようと話をしている。そうすることで、回りも褒められたいので、どんどん進んで活動するようになってくる。

＜荒木＞

高学年なので係活動は行わず、委員会活動を学級の中でもさせている。理想は、係がなくても、自分たちで動けるクラス。しかし、どうしても一生懸命な子と全くやらない子と出てきてしまう…。

先生によって方法は様々ですが、共通するのは「子どもたちの自主性」を大切にされているということです。「やらされ感」ではなく、「やりたくなる」を大事にしていきたいですね。

次回は、社会科を真面目に勉強しようということで、「教育版桃鉄体験会」と「ふるさと納税講習会」を行います。興味のある方はぜひ。詳細は決まり次第お知らせします。

